

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 8 月 20 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171300649		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム川辺		
所在地	岐阜県加茂郡川辺町上川辺1033-3 (電話) 0574-52-1631		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年8月6日	評価確定日	平成19年9月26日

【情報提供票より】 (平成 19 年 7 月 9 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	27,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 7 月 9 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	3 名	要介護 2	6 名
要介護 3	名	要介護 4	名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 84.6 歳	最低 77 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木沢記念病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは母体法人の総合福祉施設に併設し、小高い山や農地も近く自然環境に恵まれ、季節の変化が身近に感じられる。また、保育園をはじめ豊かな周辺社会資源と有機的に連携することで、地域に密着したサービスが提供されている。入居者は、要介護1から2の方で占められ、畑の収穫や育ち具合を見たり、小道の散歩、観音様参り、買い物、喫茶店など、日常的に外出して地域の一員としての暮らしが営まれている。近年は、職員の離職者もなく馴染みの関係が維持され、入居者の穏やかな表情が見られた。認知症専門の教育を受けた施設長の下、運営推進会議の機能を最大限に取り入れながら、地域密着型サービスに向けた積極的に独自性のある取り組みがなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目は、法人内のグループホーム向上委員会で検討し、さらに職員会議で周知し、改善に取り組んでいる。入居者の生活歴の情報を出来るだけ多く収集して、全職員で共有しながら日々の暮らしに反映させている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は自己評価の意義を十分に理解し、外部評価は自己評価を促進するための材料として捉え、全職員の合意を得ながらサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的で開催され、参加委員からは、運営上の建設的な提案や情報がもたらされている。ボランティアとの連携、ほっとサロンの開設、町との共同や災害時の協力体制作りに反映されている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見や苦情相談に対しては、法人内にすばやく対応するための仕組みが整っており、これまでも事例に対する取り組みの記録がされている。また、家族とのコミュニケーションをとることで話しやすい環境づくりに努めている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接の保育園と自由な往来、地域行事への参加、法人内及び町営福祉施設との交流、頻りに訪れるボランティアの人々、近隣住民をイベントに招待するなど、積極的な取り組みが行われている。認知症の出前講座や年4回発行する広報紙「ひなたぼっこ」を1000部地域に配布している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体で「利用者の立場に立ったサービス、地域に対する専門技術の提供」を理念とし、「介護福祉出前講座」の開設、ホームとしては花いっぱい運動を通し、地域と密着した実践がされている		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月曜日、併設施設と一緒に、法人理念の唱和をし、週間予定を発表しあい共有化し、共同してサービス提供に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のサークル「ほっとサロン」の訪問、近所の酒造メーカーの蔵だしや町の文化祭への参加、町営の福祉施設へ出かけ知人との交流など多くの機会を利用し、近所の付き合いを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、外部評価後法人理念を大きく見やすく掲示するなどすぐに改善されている。調査時点で出た改善内容に関してその場で改善に向けた話し合いがされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームの様子を見学後、委員に意見や情報を求めるなど運営会議を積極的に活用している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の包括支援センターと利用者の入退居の連絡、入院、重大な事故が発生した場合には連絡を取っている。ボランティア派遣でも連携しあっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを出して行事予定や入居者の暮らしぶりなどを報告している。健康状況は利用者報告書で毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不服申し立ての掲示がある。苦情等に対しては苦情受付簿に記載し上司に報告し対応している。申し送りをし職員間で共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ一年間は職員の異動がなく、極力異動は避けるよう配慮がある。職員も地元出身者が3名いて、顔なじみの関係が継続できている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は研修の重要性を良く認識し、研修、勉強会への参加を促している。介護福祉士受講講座等への参加を奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のホームが6箇所ほどで、毎月向上委員会を開催し、サービス提供にあたり情報交換、勉強会を行っている。認知症実践リーダー研修の受講者を受け入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたりホームでの短期入所サービスの利用で理解を深めることが出来る。入居時は事前に馴染みのある人と共に家庭訪問をして出来るだけ不安を少なくする対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る範囲で食事の準備や、洗濯干し、洗濯たたみ、野菜の手入れ・収穫、散歩など職員と入居者が共に生活を共有し支え合えるように努めている。		

外部 評価 値	自己 評価 値	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で行事への参加、入浴の仕方、散歩など、一人ひとりの入居者に意向を確かめながら対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族が参加して介護計画の検討をし、確認しあっている。必要に応じて栄養士、社会福祉士、在宅のケアマネジャー、保健師などの専門職の意見を聞くようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化や職員の気づきから必要に応じて、また、定期的に介護計画が見直されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設内喫茶店、ホールでの催しへの参加、共同企画の行事への参加など活用している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医を受診したり、要望により、往診を受けることができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針で重度な方はグループホーム本来の目的に適さないとの判断により、状態に応じて適した場所の選定を支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の管理には十分配慮している。トイレ誘導、介護援助のときに他の入居者に配慮したプライバシーを損ねない対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースに合わせている。近くの観音様やホーム周辺の散歩にはよく出かけているが、その人の体調に配慮しながら柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が座るまでは黙々と食べるだけの静かな食事風景であったが、職員と一緒に落着くと職員から話題提供があり、楽しそうな風景に変わった。郷土料理づくりの日は入居者が活躍している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきで、状態に合わせてゆっくり入浴が出来る。希望があれば毎日でも入浴が出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の好みや状態に合わせて、自分で掃除したり、花の水遣りをしたり、野菜の収穫、散歩など楽しんで出来るよう見守り支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの観音様参り、保育園に直通の虹の小道を抜けての散歩、行ける方は買い物など、毎日外へ出かける支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠しないケアを職員は理解していて、日中は鍵をかけないで対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回施設で消防訓練を行い、1回は運営推進委員にも状況を確認してもらっている。町と災害時福祉避難所協定を結ぶ予定になっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方の食事量に特に注意し、とりすぎに気をつけている。水分摂取が少ない方には家族と相談しながら摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、入居者の写真や、作品がたくさん飾ってあり、職員間で共有したい言葉なども掲示してある。採光がよく温度調整、換気にも気をつけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの品や家族の写真、手紙などがはってあり、居室の入り口はそれぞれの暖簾や飾りで区別されている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。